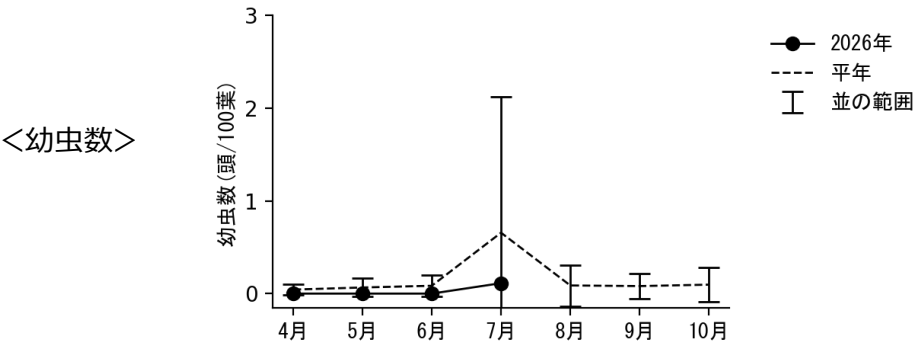
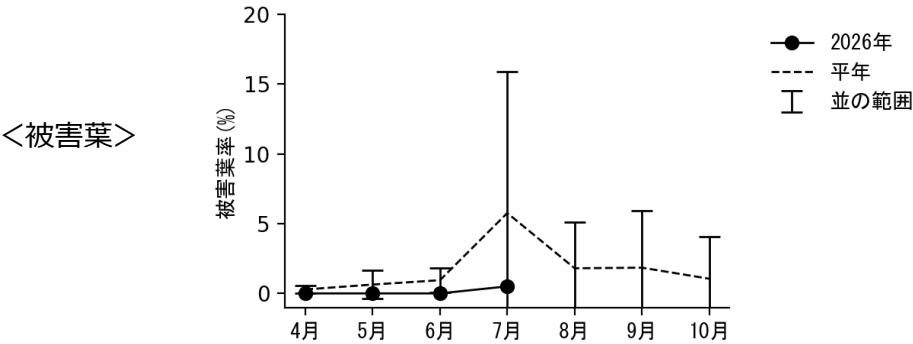


作物	カンショ		地域	沖縄群島
病害虫名	① ナカジロシタバ			
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並		
予報	7 月からの増減傾向	↘		
	8 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

今期と平年の発生推移



・発生ほ場率25.0%（平年：34.2%）

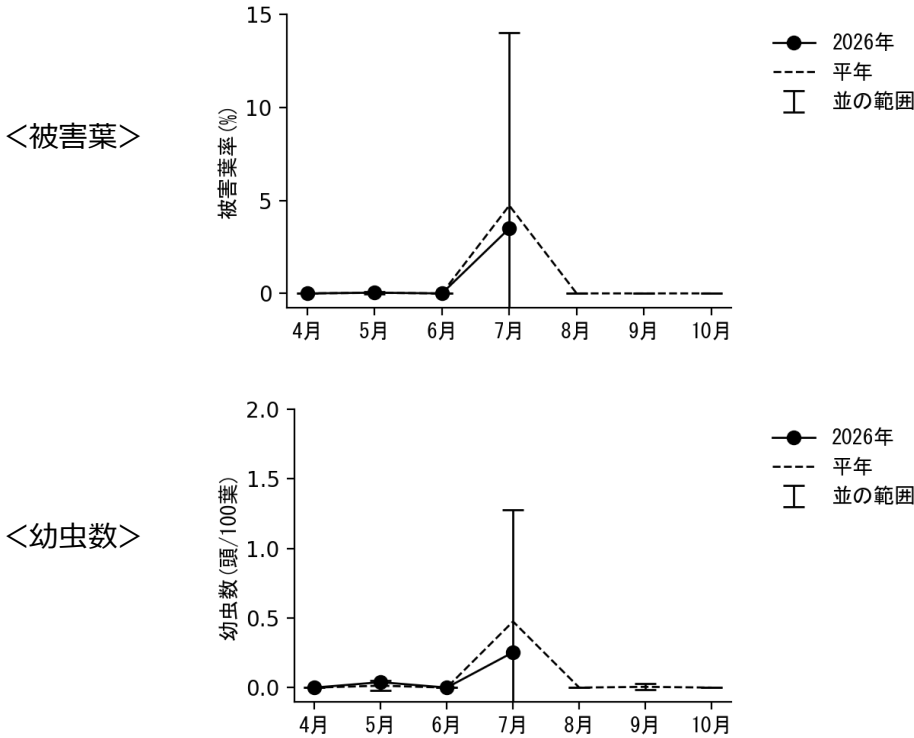
防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

作物	カンショ		地域	沖縄群島
病害虫名	② エビガラスズメ			
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並		
予報	7 月からの増減傾向	↘		
	8 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

今期と平年の発生推移

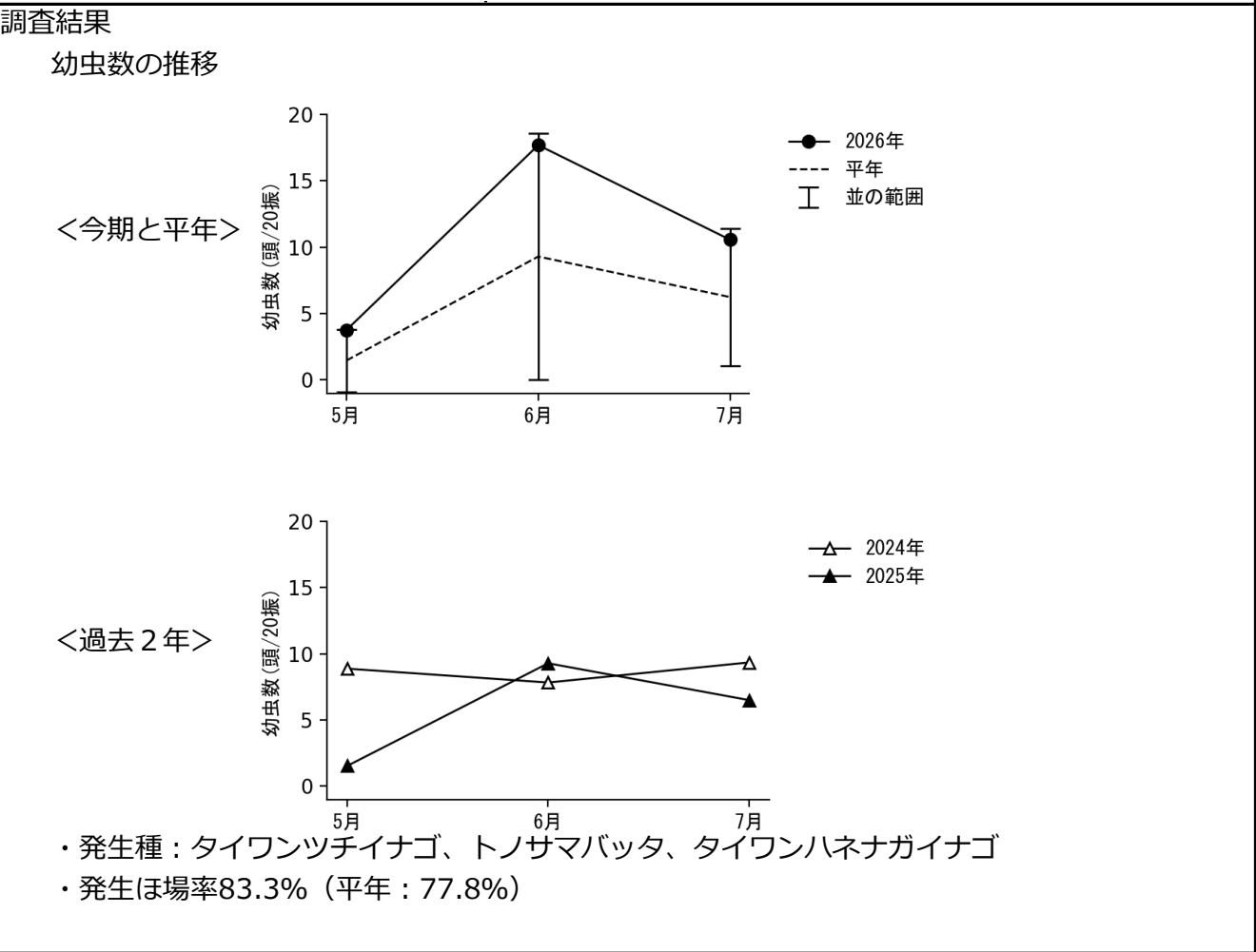


・発生ほ場率37.5%（平年：13.5%）

防除のポイント

- ・若齢幼虫の早期発見に努め、薬剤防除を行う。

作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	バッタ類			
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並		
予報	7 月からの増減傾向	—		
	8 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				



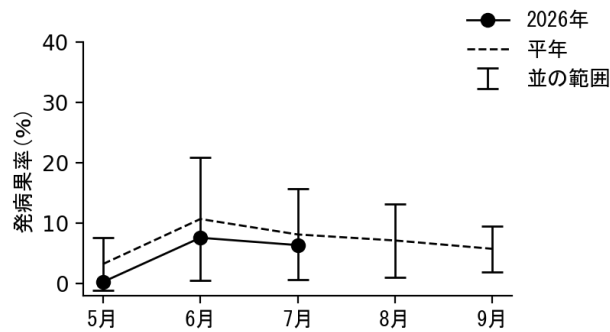
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。

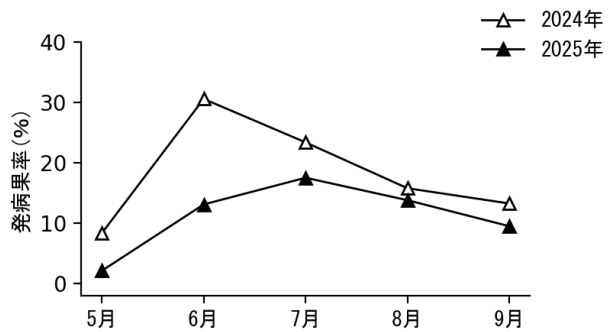
作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	① そうか病			
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並		
予 報	7 月からの増減傾向	→		
	8 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

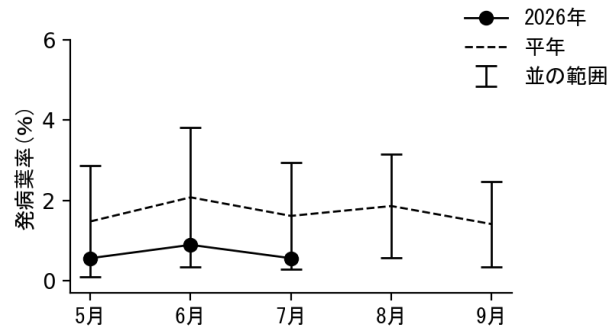
発病果率の推移（今期と平年）



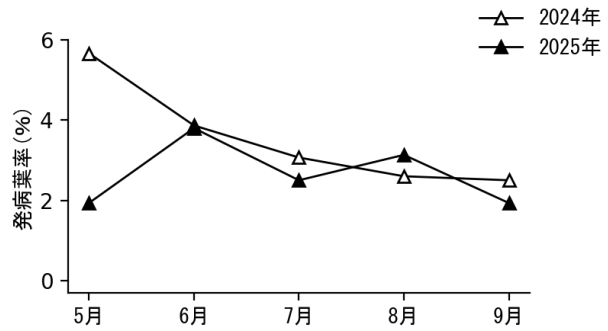
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）



- ・果実の発病度1.3（平年2.1）
- ・発生ほ場率100%（平年：58.3%）

防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

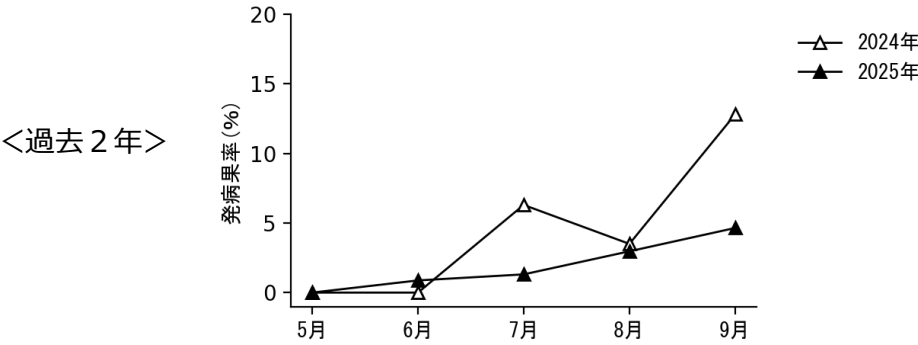
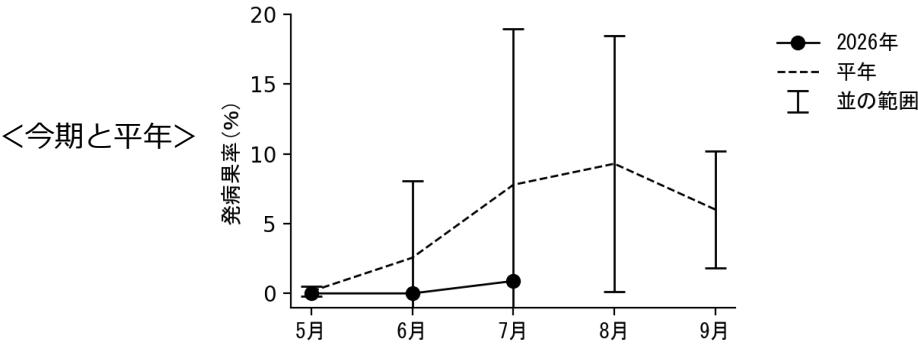
被害果→



作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病			
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並		
予報	7 月からの増減傾向	↗		
	8 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病果率の推移



- ・果実の発病度0.2（平年2.3）
- ・発生ほ場率33.3%（平年：58.3%）

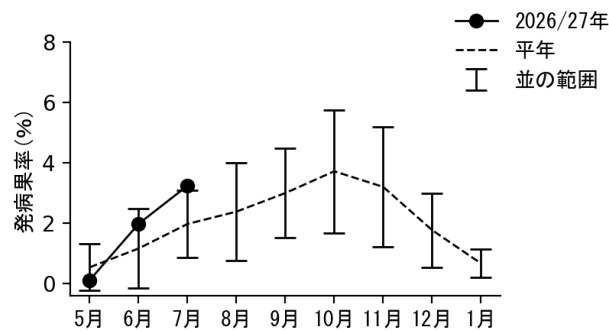
防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

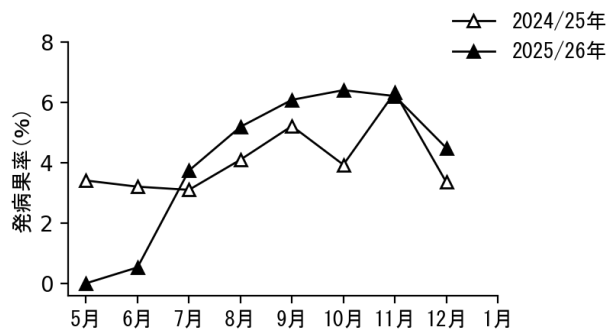
作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病			
調査結果	7 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	7 月からの増減傾向	↗		
	8 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

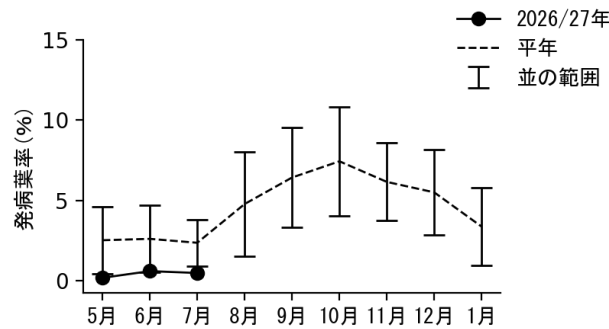
発病果率の推移（今期と平年）



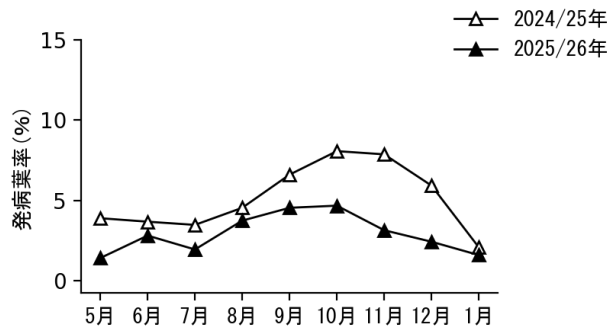
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）



- ・ 果実の発病度0.6（平年0.4）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：74.0%）

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努め、被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。
- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。

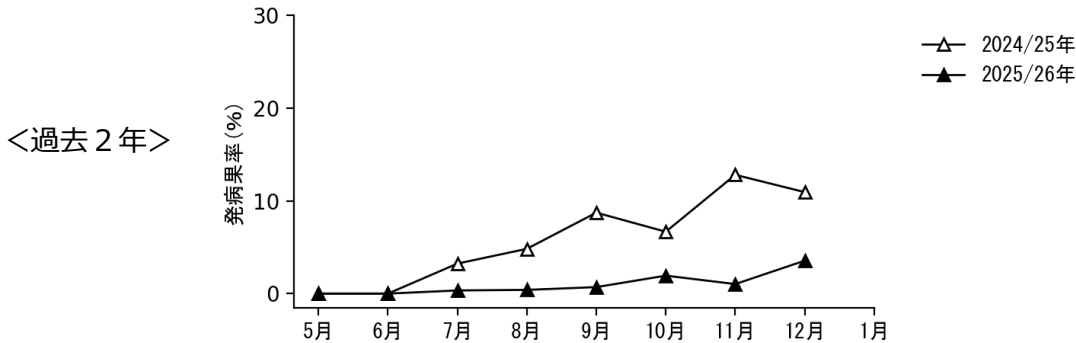
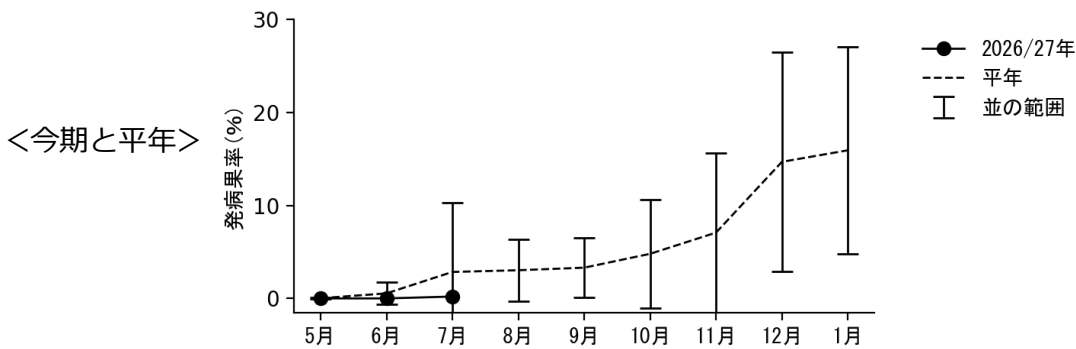


被害葉→

作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病			
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並		
予報	7 月からの増減傾向	→		
	8 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

発病果率の推移



- ・ 果実の発病度0.04（平年0.6）
- ・ 発生ほ場率20.0%（平年：34.0%）

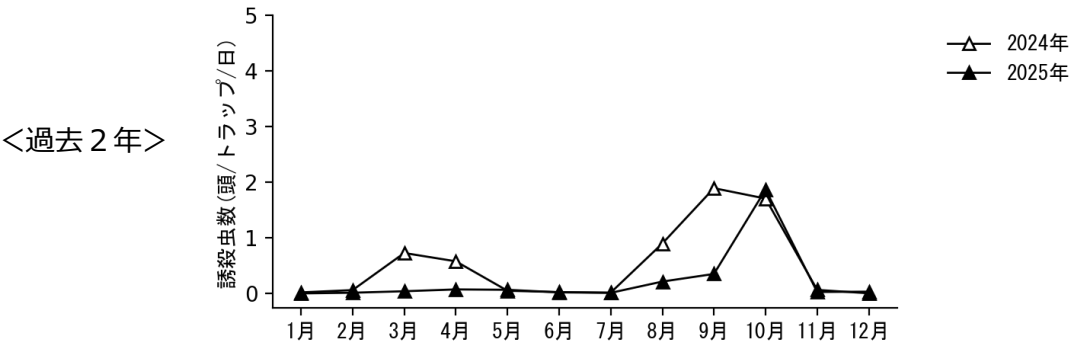
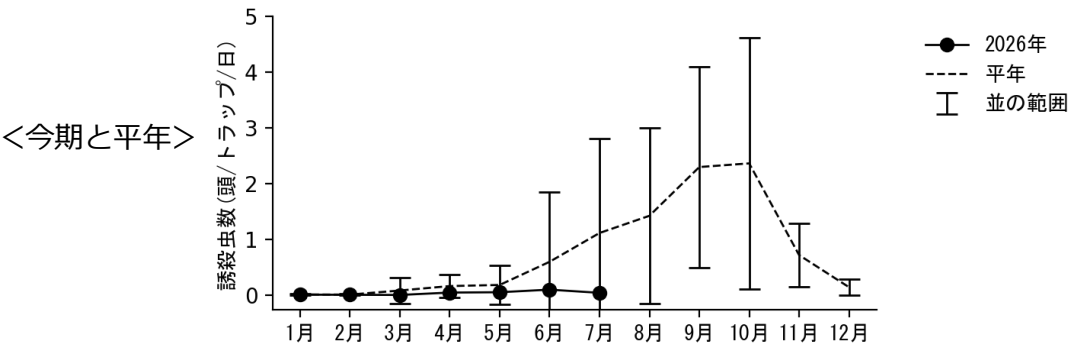
防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ			
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並		
予 報	7 月からの増減傾向	↗		
	8 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率75.0%（平年：69.2%）

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

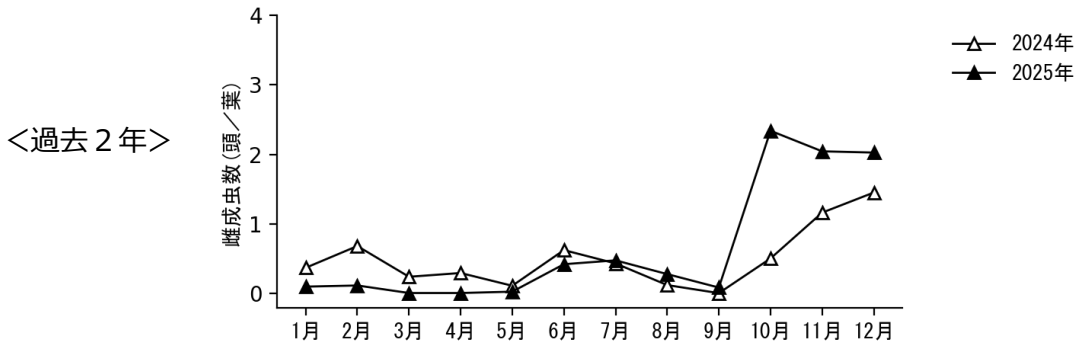
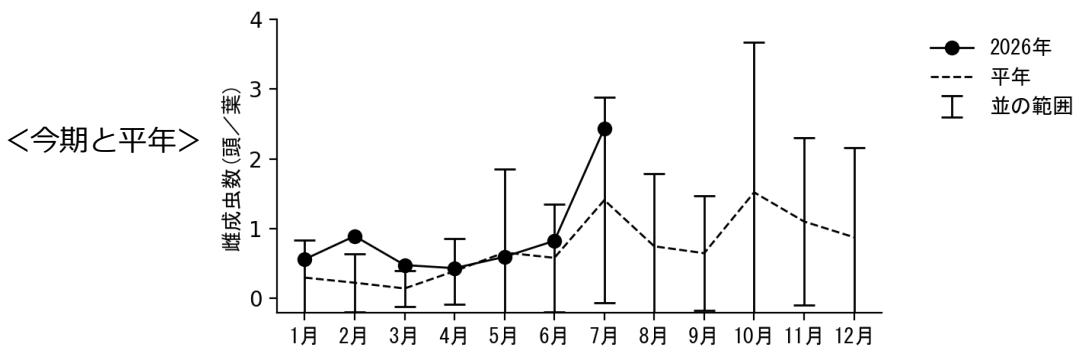


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並		
予報	7 月からの増減傾向	↘		
	8 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率87.5%（平年：64.4%）

防除のポイント

- ・収穫終了後の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

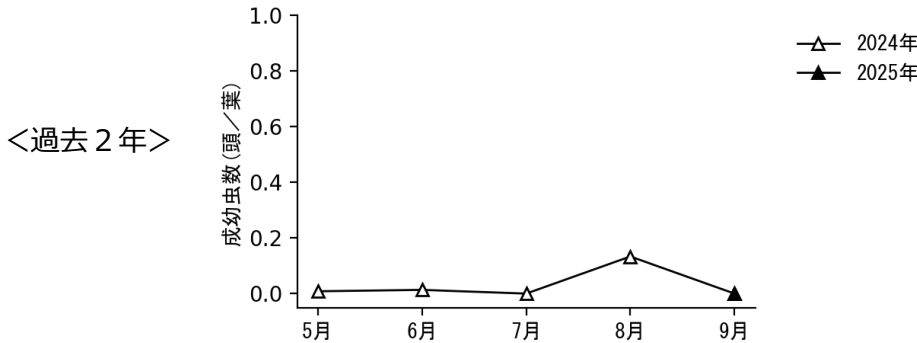
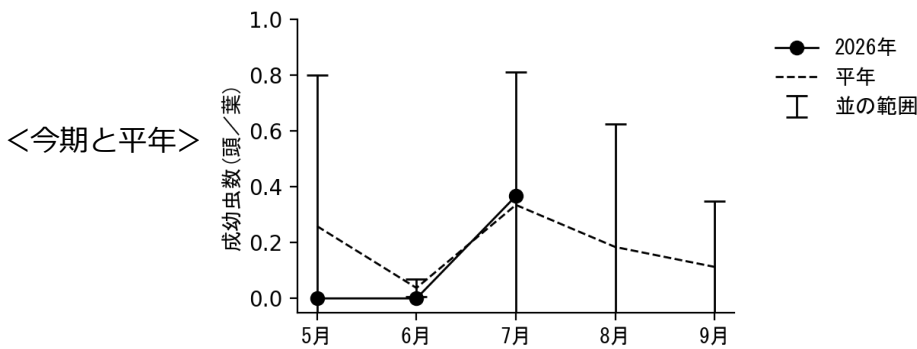


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	① アブラムシ類			
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並		
予報	7 月からの増減傾向	↘		
	8 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率40.0%（平年：32.5%）

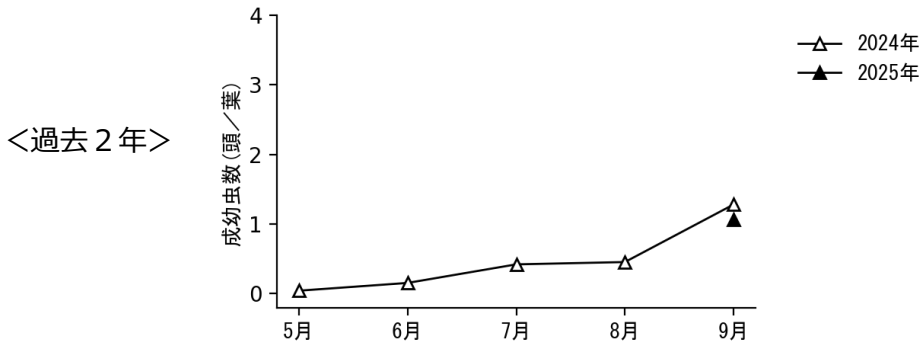
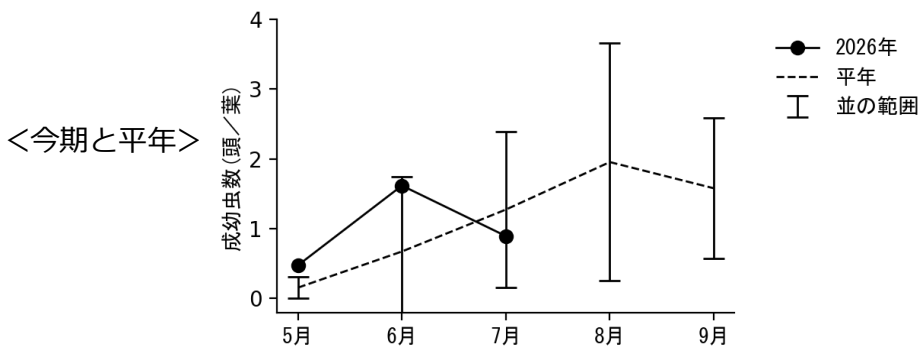
防除のポイント

- ・発生源となるほ場内の雑草を除去する。
- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、茎頂付近や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		 成虫	
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並		
予報	7 月からの増減傾向	↗		
	8 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率80.0%（平年：67.5%）

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

